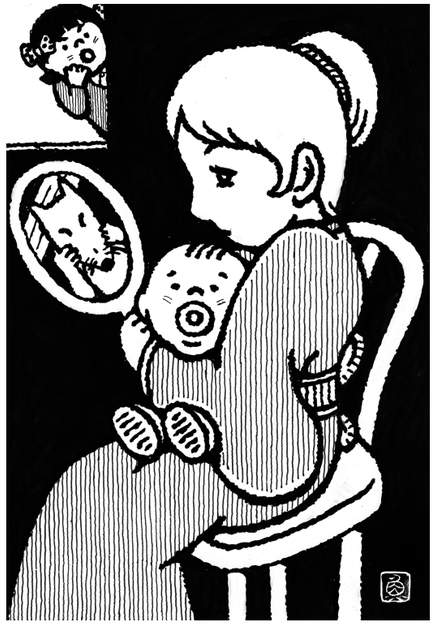
狐の恩返し・女化原（おなばけ）の伝説

龍ケ崎市馴馬町・女化神社

牛久市の中に飛び地となっている龍ケ崎市の「女化神社」という珍しい社名の歴史を紐解くと、狐の恩返しの伝説を秘めています。

室町時代の永正六（一五〇九）年に稲敷に住む忠五郎という農民がむしろを土浦に売りに行った帰りに、猟師に弓で射られそうになった白狐を助けます。忠五郎は、怒った猟師にはむしろを売ったお金を渡し、許しを乞いました。

その後、家に帰ると忠五郎の家に一夜の宿を求めに若い娘と従者が訪れていました。人の良い忠五郎は二人を泊めてあげますが、翌朝には従者の姿はなく、娘は「親戚を頼って鎌倉に向かう途中で、従者に去られてしまった」と、そのまま忠五郎の家にとどまることになりました。



やがて二人は結婚し三人の子どもも授かりました。しかし、ある日、末の子どもに乳を飲ませている姿が狐であることを長女に見られた妻は、

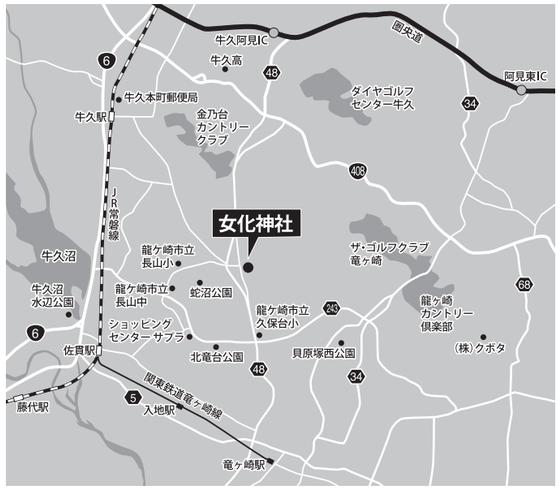
「みどり子の母はと問はば女化の原に泣く泣くふすと答へよ」という和歌を詠んで姿を消してしまいます。

忠五郎の恩にこたえた狐が化けたというこの伝説により、人々は狐の現れた場所を「女化原」と呼ぶようになり、その地にあった稲荷を「女化稲荷」と称し、やがて現在の「女化神社」となりました。

今も多くの信仰を集める神社は、毎年旧暦二月の初午の日に植木市や露店で賑わいをみせます。県内外に「女化講」という信者の団体もあります。周辺住民ばかりでなく、全国の人々から厚く信仰を受ける「女化神社」の初午に午年の今年、訪れてみればその賑やかさが体感できるはずです。

〈参考文献〉「常陽藝文2010年9月号」ほか

今年の「初午」は3月12日、「二の午」は3月24日に開催



【問い合わせ】龍ケ崎市まちづくり推進課　TEL.0297-60-1553
【所　在　地】龍ケ崎市馴馬町5387
【アクセス】圏央道「牛久阿見IC」から約10分

「運ぶ」を支え、環境と未来をひらく
ISUZU 茨城いすゞ自動車株式会社
本社／〒310-0063 水戸市五軒町1-2-5 ☎029-225-1215(大代) http://www.ibaraki-isuzu.co.jp